

【目的】わが国では近年の寿命の伸びにつれ、高齢者の幸福感や満足度に対する関心が増してきた。これまで社会学や社会心理学など様々な分野で、主観的幸福感と属性、パーソナリティ、日常生活、健康度、ネットワークや受けたサポートなどとの関連が明らかにされている。これからはますます、職場から退いた後に地域で過ごす期間も伸びて行く。故に、地域との関りの中で、高齢者がどれだけ生活に対して満足しているかということが重要になってくる。そこで、本研究では、改訂版P.G.C.モラールスケール(Lawton, 1975)を用いて、主観的幸福感と地域との関わり、ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポートなどとの関連を明らかにする。

【方法】調査対象と質問項目は第1報と同じである。本研究ではその調査結果のうち、特に属性、地域との関わり、日常の付き合い、ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポートなどについて、モラール得点との関連性を検討する。

【結果】(1)居住形態では、在宅高齢者の方が施設入居者に比べてモラールが高い。属性との関係においては、若く、健康度が高く、経済的条件がよく、学歴が高い高齢者の方がモラールが高い。配偶関係においては、配偶者がいる方がモラールが高い。(2)在宅高齢者では同居者がいる方が、施設入居者では夫婦で入所しているよりも単身で入所している方が、モラールは高い。(3)在宅高齢者では、全住居所有形態の中で、民間の借家居住者において、最もモラールが低い。(4)地域の居住年数との関連は明らかではな